

大 東 市

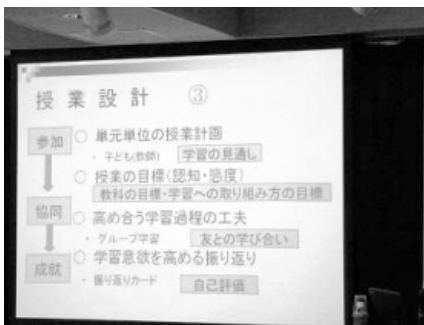
学び合い、学び続ける明日の市民の育成
～学び合う力は、教育に自立と協同の文化を育む～

はじめに

大東市は、「全国学力・学習状況調査」、「いじめ調査経年比較」、「豊かな人間関係づくりアンケート」、「学校生活満足度調査（Q U調査）」などの結果を分析し、本市の教育課題を抜本的に洗いだしました。

そして、その教育課題の解決に向け、長期的な展望に立った教育の方向を示すべく、「大東市教育ビジョン<学び合う学校園づくり>」を平成21年4月に策定しました。基本構想（10年）には、大東のめざす子ども像を示し、基本計画（5年）にはビジョンⅠ<社会力を高めます（人間関係づくり）>ビジョンⅡ<人間力を高めます（授業づくり）>ビジョンⅢ<支援力を高めます（教育環境づくり）>の3つを掲げ、市の教育課題の解決に取り組みながら大東のめざす子ども像の実現に努めています。

「協同学習」ワークショップ



先生たちも学び合っています



自ら学び、学び合う力を育みます

本市では、学力向上施策の中核に授業改善を位置づけています。

「人は安心できる環境で最もよく学ぶ!」と言われています。お互いが切磋琢磨し、支え合い、認め合い、高め合うためのコミュニケーション力は、これからの社会を生きていく子どもたちにとって大切な力です。

そのため、市で掲げたビジョンⅠ・Ⅱ・Ⅲを授業改善に結びつけ、子どもたちの自ら学び、学び合う力の育成をめざし、学力向上に向けた「学び合う授業づくり推進事業」に取り組んでいます。

「私はこう考えるけど…みんなは?」



グループ発表です。考えが深まります!



「学び合う授業づくり」とは
(教える側の発想転換)

自ら学び、学び合う力を育むために、市内の学校

では子どもの立場、つまり「学ぶ側の視点」から授業をとらえ直す取組を始めています。

例えば、子どもたちの間違いや失敗、あるいは「正しいかもしれないが、ふに落ちない」という疑問を大切にしたい授業を行おうとしています。教えることに熱心になりすぎて、正解のみを教え込むことは、かえって学ぶ意欲を低下させ、考える力を育てられないのではないのでしょうか。話し合う課題や手順を工夫することで、子どもたちは授業で学び合う楽しさを実感してくれます。それが学校をより魅力的にし、信頼を深め、基礎学力の定着・考える力の向上にもつながっていきます。

信頼関係が学びを深めます



まずは、大切な個人思考です



各校の「授業改善研究会」を公開しています

「学ぶ意欲を高め、学びを深めます」をテーマに、年間を通じて指導講師（日本協同教育学会）を迎え、公開の「授業改善研究会」が小中学校で取組まれています。

その公開授業では、子どもたち一人ひとりの個人思考の時間があり、ペア・グループで話し合う場面が取り入れられ、子どもたちは集中して楽しく活動しています。先生は、子どもたち一人ひとりの積極

的な参加を促すために、「話し合いなさい！」という指示だけでなく、子どもたちに与えられる課題が具体的ではっきりしていること、活動の手順が子どもたちに共有されていることなどに留意した指導を心掛けています。また、自分が考えたこと、話し合ったことを書きまとめる小型の「ホワイトボード」、まとめ用の「ワークシート」、学習の確認をする「振り返りカード」などの教材・教具にも工夫をしています。そして何よりも、先生と子ども、子ども同士の良き人間関係を大切にする授業づくりに努めています。

「こうかな…？」2人で相談



考えたことをホワイトボードに



市採用の非常勤講師を配置しています

自ら学び、学び合う力を育むには授業の工夫改善とともに子どもたち一人ひとりと十分ふれあい丁寧に支援する時間が必要です。

そのためには人的なマンパワーが欠かせません。今年度から、一人ひとりの子どもたちへのよりきめ細かな指導の充実に向け、少人数指導・チームティーチング指導などを学校裁量で取組めるよう市採用の非常勤講師を9名配置することにしました。保護者・子ども・教員の少人数授業やTT（チームティーチング）授業への評価は非常に良好です。